

これがRC造建築の粋

学会賞「W受賞」で祝賀会 老舗旅館・望洋楼がリニューアル

鉄筋コンクリート（RC）造にリニューアルされ、2021年11月に再オープンした老舗旅館「望洋楼」（福井県坂井市）が、23年6月に日本コンクリート工学会（JCI）の作品賞を受賞し、同11月に米国コンクリート工学会（ACI）のACIコンクリート優秀作品賞（低層建築部門）の最優秀賞に輝いたことを祝して、このほど都内の福井県アンテナショップ「ふくい南青山291」で祝賀会が催された。リニューアルに関わった東京大学、施主の第一望洋楼をはじめ、設計・管理の空間構想とKAP、施工の田中建設、JUST.W ILL、コンクリート用化学混和剤協会、全国生コンクリート工業組合連合会から20人が出席した。

地し、その名の通り客室から日本海を一望できる。リニューアルにあたっては、地震発生時に想定されている約8級の津波にも耐える高い安全性を確保するため、RC造が採用された。また、意匠の観点から、梁や柱のない壁構造とした。コンクリートを露出させた仕上がりには木目転写や洗出しなどの各種の仕上げ工法を駆使するとともに、福井県の名産の石材や和紙も随所に用いることで自然な風合いを持たせた。豊かな表情を演出する工夫も施されている。

一方、日本海からの荒波や潮風に直接曝される環境にあることを考慮して、使用するコンクリートには、耐久性向上に寄与する様々な対策を講じている。躯体コンクリートには、高炉セメントB種を使用し、かつ、かぶり厚さも大きくすることで、耐塩害性を高めている。同時に、乾燥ひび割れ対策として単位水量を165kg/mに抑え、さらには収縮低減剤を併用したことで、JASS 5が定める低収縮等級Iを達成した。凍結融解作用にも配慮して、空気量を十分に確保した。

他方、施工に際しては、主に厳寒期での作業になったことから、ITT技術を用いた温度管理システムを採用して高水準の品質管理を実現した。こうして施工された望洋楼は、高い意匠性と安全性を兼ね備える、RC造建築の魅力を凝縮した建物に生まれ変わった。

新しい望洋楼は国内外から高い評価を受けてきたが、国内の構造物がJCIとACIの学会賞を

IとACIの学会賞を「W受賞」するのはきわめて異例で、大きな快挙といえる。祝賀会は、施工を担当した田中建設の発起により、望洋楼のオーナーである刀根瑛昌社長の賛同を得て実現した。リニューアルプロジェクトの全体指導にあたった友寄篤太郎（東京大学助教）をはじめ、RC造建築の普及推進事業の一環として同リニューアルプロジェクトを支援してきた全生連などが、建設に携わった関係者らが当時の苦労話を共有し、お互いに祝いあう会となった。

日本海を臨む望洋楼

「望洋楼」は明治時代から続く料理旅館。越前加賀国定海岸公園内に立



「望洋楼」は明治時代から続く料理旅館。越前加賀国定海岸公園内に立



都内で祝賀会



打ち放し壁が映える客室